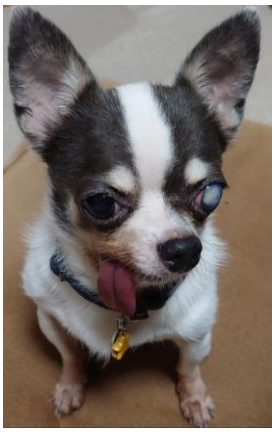
Letter of the M.Y. elementary school

ひ び き　南山田小学校だより

～ ともだちいっぱい　かがやく子 ～

学校通信　NO.316
令和４年度 8･9月号
令和　４年８月２９日



夏休みのチャレンジ結果…

校長　鈴木　智彦

　まだまだ暑い日が続いていますが、夏休みを終えて、南山田小に子どもたちが帰ってきました。今年は行動制限がない中、コロナウイルス感染症予防と第７波の影響を考えないといけないため、過ごし方が難しい夏休みだったのではないでしょうか。
　その中で、皆様はどのように過ごされたでしょうか。
　また、子どもたちにとって、どんな夏休みだったでしょうか。

　私は、６月末に１匹の保護犬を引き取りました。メスのチワワで「つくし」という名前です。これまでの背景は詳しくはわかりませんが、左目が白内障、前歯は抜けてしまったため、いつもベロが口から出ているシニア犬です。
　譲渡先から、トイレトレーニングの大切さを伺い、「餌の後、トイレシートに用を足したらゲージを開ける」というルールを覚えさせようと気合を入れて取り組みましたが、なかなか成果は上がりませんでした。トイレシートにうまく出来る時もあれば、見ていないうちに家のいろいろな場所でこっそりしている時もありました。その様子を、夏休み前の朝会で子どもたちに話し、「校長先生は、夏休み、犬のトイレトレーニングに挑戦します！」と宣言しました。

　夏休みに入り、一進一退、成果が上がらない「つくし」と根競べをしながら、様子を観察しました。すると、あることに気が付きました。
　どうも「つくし」は、ゲージを自分の部屋だと思っているようで、そこをトイレで汚したくないようなのです。逆に、「外に出たら用を足すものだ」と思っているらしく、散歩に連れていくと、真っ先に大小、両方を済ませるのです。そこに、この「トイレ問題」を解決するヒントがある、と考えました。

　結果として、今は、トイレトレーニングをしていません。
　「用を足すまではゲージから出さない我慢比べ」より、「朝夜２回の散歩」に切り替えたことで、家でこっそりすることはなくなりました。
　「つくし」にとって、「餌の後、トイレシートに用を足したらゲージを開ける」というルールは、ある意味、こちらの都合を押し付ける一方的なルールだったようです。試行錯誤を重ねた末の「朝夜２回の散歩でトイレを済ます」が、私にとっても、「つくし」にとっても、「納得のいくルール」として、落ち着きました。

　ルールは片方の都合で押し付けても長くは続きません。「なぜ、そのルールが必要か」あるいは「こういうルールなら、お互い気持ちよく過ごせるよね」という双方の納得が、長く続ける秘訣なのではないでしょうか。結果的に私の「夏休みのチャレンジ」は失敗しましたが、相手の立場になって考え、場合によっては変更する大切さを改めて認識させてくれた「貴重なチャレンジ」となりました。